

参加者質問

多摩市回答

1 多摩ニュータウンに30年程度住んでいる。歩車分離で子供の交通事故の心配がないことが転入した理由。ニュータウン再生については20年以上前から議論されていたが、もっと早く取り組んでほしかった。多摩NTが現在も発展しているとの説明だったが、多摩センターのデパート・ホテルの閉業や大学の募集停止など地盤沈下が進んでいる。住宅価格では橋本と坪単価で150万円ほど差があり、これが市場の評価ではないか。流山市は「母になるなら、流山市。」のキャッチコピーが素晴らしく注目されているが、多摩市は発信力が弱いと感じる。4つの沿道エリアに分けるとのことだが、全体のまちづくりを示さないと事業者も乗りづらいのではないか。また、都市計画マスタープランの改定はいつを予定しているのか。

都市計画マスタープランの改定は令和6年度末を予定している。

尾根幹線は都が整備中であり、令和11年度末に4車線整備予定。尾根幹線の整備に合わせて沿道の土地利用を商業・業務系に転換することを検討しており、諏訪・永山にマッチする機能を行政より詳しい事業者にご提案いただき、都市計画マスタープランに反映したいと考えている。都市計画変更の手続きは都市計画マスタープランの改定後に行うことになる。

2 事業者からの提案がいろいろあるとのことだが、ニュータウンの課題として挙げている高齢化は全国的な課題。その中で歩いて移動できない方への対応が必要になるのではないか。URは千葉の団地などでバスの自動運転を試行した実績があるようだが、歩行が困難な方への配慮の施策は念頭にあるのか。

高齢化に対応する新しい交通網整備に対しては、南多摩尾根幹線沿道土地利用方針でも次世代交通モードの導入を方針に掲げている。無人での自動運転等実用化が進めば、団地内のシャトルバス運行のような社会実験も検討していきたい。